

亘理地域漁業復興プロジェクト

宮城県亘理町

事業実施者：宮城県漁業協同組合

使用船舶名：JF幸邦丸(9.7トン)

支援期間：平成25年1月6日～平成28年1月5日

(小型底びき網漁業・火光利用敷網漁業)

(取組の内容)

- 改革型漁船：省エネ型船型・エンジン、横揺れ軽減等による安全性向上、作業スペース拡大等による作業効率向上等
- 経営合理化：従来の小型底びき網漁業(+改良漁具導入)に加え、新たに火光利用敷網漁業を兼業 → 漁場の立体利用、漁獲圧の分散
- 高付加価値化：海水冷却装置・冷海水シャワーの導入による活魚率向上・鮮魚の高鮮度保持
- 需要拡大等：直売所“鳥の海ふれあい市場”における販売・地域イベントにおけるPR・販売
コウナゴ等の新たな漁獲物の利用・販売



新たな漁獲物
”コウナゴ”

(事業の成果)

- 小型底びき網漁業の水揚量が計画より大幅に増加(76トン→105トン)する中、活魚率向上(47%→53%)等の取組により一定の価格を維持したこと及び火光利用敷網漁業との兼業が水揚高の増額・安定に寄与したことから、**償却前利益9百万円(3年平均)が得られた。**
- 省エネ型船型等の導入により、**燃油消費量が31%削減された。**
- コウナゴが亘理地域の新たな水揚物として定着した。